インテンシブ・イシュー
教育プログラムのモデル展開

Intensive Issue Based Education and Training Program

II-BEAT

CHIBA UNIVERSITY

II-BEAT（ツービート）：インテンシブ·イシュー教育プログラムとは？

本事業名は「インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開」で、英語名称は、Intensive Issue Based Education and Training Program、略称はII-BEATです。読み方はダブル・アイ・ビート、ニックネームはツービートです。

II-BEATは、イシュー（課題）から考え、かつ、そのイシューを深めるために、メリハリをつけたターム運営で行います。ひとつは横断する学問領域の教員による連携的かつ集約的な講義、演習を行うタームと、もうひとつは野外実習・実験、インターン、留学等、学外での学びを個々の学生がカスタマイズしやすい、セルフデザインギャップタームを組み合わせたカリキュラムを構築し、課題解決型思考の養成をめざします。

千葉大学ではまず、文理双方の研究領域の教員が所属する国際教養学部において、インテンシブ・イシュー教育プログラムを構築します。その上で、学部や学問の垣根を越えた横断的なカリキュラムを全学的に展開し、イシュー主体の学位プログラムの構築を目指します。II-BEATでは、現代世界が抱える喫緊の社会的課題から考える、いわゆるイシューベースで学生自身が学びます。

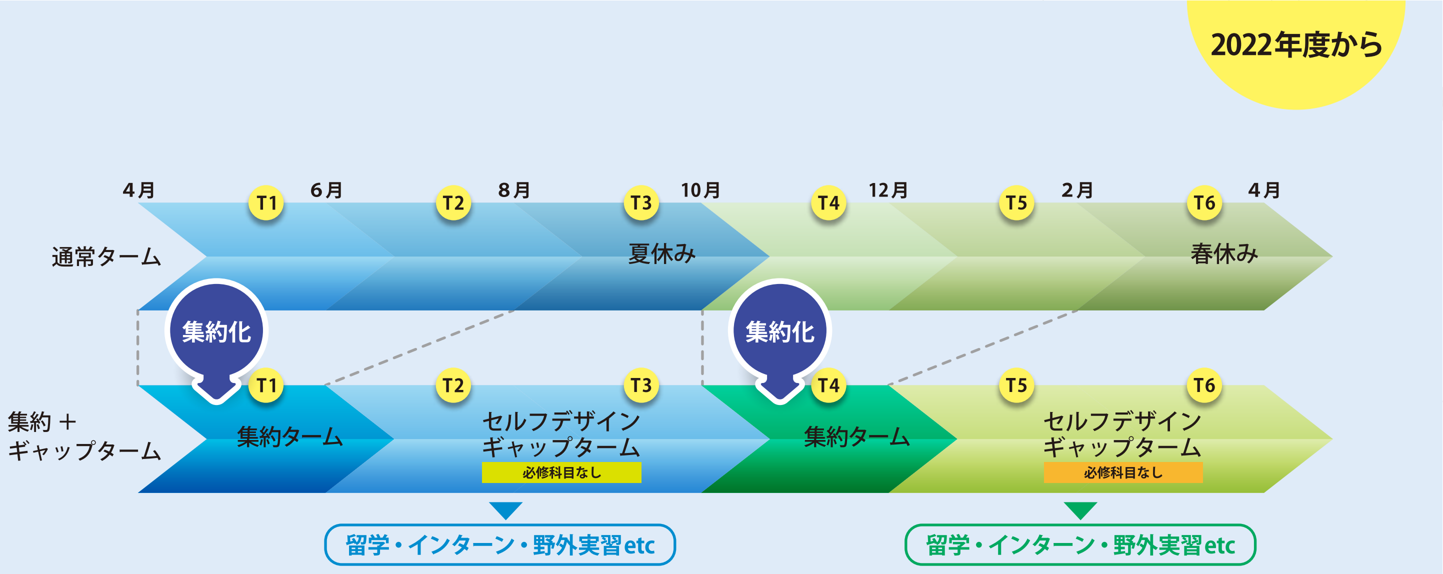
これからの時代は完全「正解」のない課題に、いかに向き合うかが大事です。II-BEATでは、ヒューリスティックな思考（さまざまな知恵を組み合わせ現状における最適な解を即断できるものの見方）についても意識して、柔軟に現代社会の課題に取り組める人材育成をめざします。

II-BEAT で行う学びの特徴

（1）イシューベースの学びをさらに深く

これまで国際教養学部では、課題先行型の学びをめざし、学問的ディシプリンからではなくイシューベースで思考を深められる学びを構築してきました。学生たちは、現代的課題を自ら発見した上で、その解決のためにどのような学問的方法が必要で、そしてさまざまな立場の人たちにどのように対応すべきかを中心に学びを深めてきました。

II-BEAT では、イシューベースの学びをさらに深化・発展させるための集約的なカリキュラム編成を行います。まずは３年次第１タームと第４タームに、幅広いイシューに集中的に接近できるようなカリキュラムを作ります。



セルフデザインギャップターム

・学生自身がギャップタームを「学外での学び」でカスタマイズ
・学生によるカスタマイズにあたっては、SULAによる指導を受ける

（2）第１ターム・クロスメジャープロジェクトⅠ15プログラムの新規開講

３年次の必修科目「クロス・メジャープロジェクトワークⅠ（CMPⅠ）」を大幅に刷新します。これまではアクティブラーニング形式の授業として、グループごとに２名のメンター教員のもと、学生自身で課題設定をした上で、「共著」を作る活動を行っていました。新しいCMPⅠは、各メジャー（グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学）５つのプログラム、合計15のプログラムを第１タームに集約して開講します。学生は、自らの所属メジャーの授業と所属外メジャーの授業をそれぞれ１つ以上（計２つ以上）履修し、より高度なスキルを学びます。

2022年度から

新しいクロスメジャープロジェクトⅠ（CMPⅠ）のプログラム化

・メジャーごとに５プログラム、計15プログラム（各１単位）を開講
・テーマごとに教員チームがあり、持ち回り／複数教員により開講
・コマ数は8回。学生は少なくとも2科目を受講する

グローバルスタディーズメジャー		現代日本学メジャー		総合科学メジャー	
NO	テーマ	NO	テーマ	NO	テーマ
1	国際移動とアイデンティティ論	1	日本語教育	1	「自然」を測る
2	移動・教育・就労	2	英語教育	2	「環境」を測る
3	国際関係・開発経済	3	社会・多文化・制度	3	「光」を測る
4	アイデンティティと表象	4	ケースで読み解く地域産業	4	「身体」を測る
5	サステイナブル空間デザイン	5	言語と文化	5	「測る」を測る

（3）モジュール科目群の設置

2022年度第４タームから、３つのモジュール科目群を設定し、希望する３年生が受講します。「移民・難民論研究」「地方・地域振興研究」「総合環境科学研究」の各モジュールとも、科目ABCの３つによって構成し、それぞれの課題についての集中的な学びの場とします。

原則、３つのモジュールに課題設定をした学生は、科目ABCすべて取らないといけません。他方で、３つのモジュール科目群の課題を志向しない学生も科目Aの履修は可能とします（ただしBは担当教員の許可が必要です）。

将来的には、現代的課題の変化に対応し、３つのモジュール科目群もさらに変化させたり、新たに作ることを予定しており、文理にとらわれない、分野を横断した授業科目運営の連係を強化します。

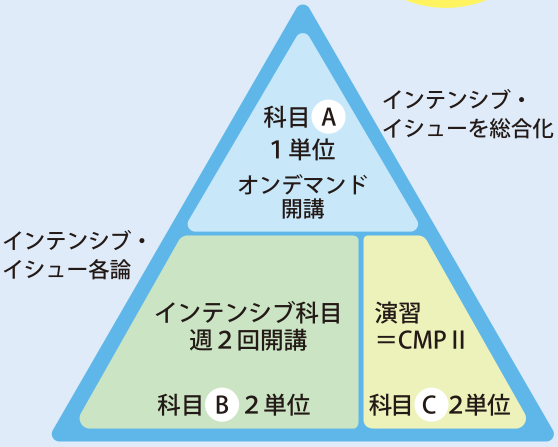
2022年度から

インテンシブ・イシュー・モジュールコース

・３年次学生対象として、インテンシブ・イシューを捉えるための集約的な科目群でコースを構成
・科目Bは週２回開講（２単位）のインテンシブ科目
・2022年度に３つのモジュールコースを設定（各コース10名程度、以降拡大）

モジュールコース

移民・難民論研究	地方・地域振興研究	総合環境科学研究
科目Ａ　移民論	科目Ａ　地方創生論	科目Ａ　科学と社会的意思決定
科目Ｂ　フィールドから学ぶ	科目Ｂ　千葉の地域資源と活用	科目Ｂ　社会と科学技術の界面
科目Ｃ　移民・難民特別演習	科目Ｃ　地方・地域振興特別演習	科目Ｃ　総合環境科学特別演習



モジュールコース履修学生は科目A、B、Cが必須

（4）セルフデザインギャップタームの活用

国際教養学部では、２年次に必修科目をおかないギャップタームがありますが、３年次の学びの柔軟さを設けるために第２、５タームにも原則必修科目をおかない、セルフデザインギャップタームを作ります。これまで国際教養学部で行ってきた現場での学び（実習、実験、インターンなど）をここに置きます。これまで開講されてきた「グローバルボランティア」「グローバルインターンシップ」「持続的地域貢献活動実習」もこのタームに集約します。また実験環境を整えて、担当教員のもと自由な課題設定での実験が可能なプログラムも用意します。そして全員留学の取り組みのもと、留学のプログラムも多彩に用意しており、セルフデザインギャップタームを活かした活動をします。

▲ グローバルインターンシップ

▲ 持続的地域貢献活動実習

▲ 総合的な実験環境を整備する教室

（5）SULA はじめ学修支援連携の強化

国際教養学部には、学生自身の課題設定に対してどのような学びが可能かについて、アカデミックアドバイジングを行う SULA（Super University Learning Administrator）がいます。これまでも日常の生活上の相談、留学に関するアドバイスなどを担当していますが、II-BEATのカリキュラムの受講についても、学生個々人に対応していく体制を整えていきます。また Student SULA が留学、就職そして履修上の相談を行うピアサポート体制も取っています。

▲ Student SULA によるピアサポート

（6）これからも拡がるインテンシブ・イシューに基づいたモジュール科目群の設定

2022 年度は、３つのモジュール科目群からスタートします。2023 年度以降さらに教員同士が連携をしてインテンシブ・イシューに対応しうるモジュール科目群をそれ以上に増やしていく予定です。文理の枠を超えた、新たなイシューにあわせた集約的な学びをめざします。

さまざまなイシューをもとに、これまで国際教養学部の学生はメジャープロジェクト（卒業研究・卒業制作）に取り組んできました。今後も学生の自由なイシューベースの学びをサポートしていきます。

知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）
Human Resource Development Project for Supporting Knowledge-Based Society

CHIBA UNIVERSITY

II-BEAT
インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開
INTENSIVE ISSUE BASED EDUCATION & TRAINNING PROGRAM

事業の詳細についての問い合わせ

インテンシブ・イシュー教育プログラムのモデル展開事務室　E-mail：las-iibeat@chiba-u.jp

II-BEAT Web サイト：https://www.las.chiba-u.jp/II-BEAT/ ▶